

恩師を訪ねて

紅林 俊明先生



1999年4月から2016年3月まで在職(33回・昭和35年卒)

昭和32年の本校入学生直後、キラキラしたラッパに憧れて音楽部に入学。高1の秋、静岡国体でサッカー部が優勝した時のパレードでは、トロンボーンを吹いて市内を行進した。ところが高3の4月に出会った武蔵野音楽大学の先生の勧めでチェロを始め、わずか10ヶ月のレッスンで同大チェロ科に合格した。

その言葉通り、授業の最初は校歌や第一応援歌を無伴奏で大合唱。先生自身のチェロ演奏に音楽史の鑑賞を絡めた「歴史と鑑賞」の実践。そんな熱血指導のもと、ピアノの鈴木賢貴氏(前号)に随想寄稿が育つていった。

随想

藤枝順心中学校・高等学校 校長 戸田 雪子 (40回・昭和42年卒)



私の高校時代は自分の戦いの連続でした。音大受験を目指してピアノ、音楽

楽典のレッスンに明け暮れる毎日でした。母校は当時、愉快なあの先生の多く、ダットサン、シンゴ、青大将、ロングロングアゴー、トシマ(すみませぬ)と敬愛しいときがありました。中でも伏見先生の印象は強烈でした。

順心は大正元年に仲田順光により創立されました。108年の間に建物や名称は時代に合わせ変化してきてきました。しかし、決して変わらなかったのがあり、それは女性の幸せを追求した順光の強い願いと志です。

「授業は爆発、教師は群馬が私のモットー。そして大学時代に群馬交響楽団に参加していたプロとしての経験が東高での授業にすく生きましたね」

宇宙は1種類の素粒子からできている？



東京大学・宇宙線研究所 教授 塩澤 真人 (60回・昭和62年卒)

身の回りの物質や宇宙を形作る最小単位(素粒子)を理解することにあります。位や高校で習ったように、全ての物質は周期表に並ぶ約100種の原子(元素)からできています。さらに、全ての元素は3種類の粒子、すなわち原子核を構成する「陽子」と「中性子」、さらに原子核のまわりをまわる「電子」から構成されているということがわかっています。

この衝撃的な予言である陽子が壊れる現象を探索する実験装置が「スーパーカミオカンデ」と呼ばれる日本の実験装置であり、私の仕事場になります。素粒子の統一理論の証拠を捉えることが夢です。実験開始から20年経った現在まで、残念ながら陽子が壊れる現象は見つかっていません。観測が続けられていいます。並行して、さらに高性能な実験装置「ハイパーカミオカンデ」の実現も検討されているところです。

島田大祭の長唄社中はすごい



島田大祭保存振興会会長 堀江 良則 (46回・昭和48年卒)

島田市に生まれ育ってきた私の親族との、志太中・東高の関係は、弟が東高48回卒。義父は志太中6回卒、叔父は24回卒。私の長男は76回卒で、親子3代

志太中・東高卒業生です。島田に居ることで、私は江戸元禄から続く島田大祭に深くかかわってきました。そして、今年令和元年10月12・13・14日に第109回島田大祭が催されます。今回の大祭での、私の役割は島田大祭保存振興会会長です。

第二街は、芳村金四郎社中です。この社中では、歌舞伎座などで、歌舞伎役者の十一代目市川海老蔵の後ろで演奏している社中です。第四街は、東音会社中、東京芸術大学邦楽科の卒業生を中心に組織されています。東音会は、昭和32年、人間国宝だった山田抄太郎が組織しました。

存在意義 高校卒業後、京都、東京、富山と移り住み、現在は岐阜県飛騨市の山中の小さな集落到住んでいます。コンビニもガソリンスタンドもない場所ですが、山と川にかこまれた静かな環境は気に入っています。ここに住んでいられるのは、素粒子物理学の実験施設があるためです。

全国各地に足を運び、年間300回試合近い試合を視察しながら、ジュビロ磐田の将来を担う選手探しに日々奔走している毎日です。スカウトとしての仕事も3年目を迎え、落ち着きを持って業務にあたるようになっていくなってきました。

私が小学校3年生の時にドリッグが開幕し、その頃から当り前のよう存在するジュビロ磐田、どんな意味を持って存在するのか、強化部という立場に身を置くようになっていきました。そして想いをめぐらせる中、私の中で出たひとつの結論があります。「ジュビロ磐田に関わる全ての方に幸せな時間と空間を提供するために存在している」ということです。

東高に在る喜び

この4月に副校長として赴任した石垣智博と申します。私は藤枝東高校には平成25年4月から28年3月まで教頭として勤務し、このたび4年ぶりに戻ってきました。3月末に業務引継ぎの打合せに来たとき、すれ違う生徒たちが「こんにちは」と気持ちのいい挨拶をもらい、「ああ、これが東高だ、戻ってきたなあ」とうれしくなりました。



副校長(新任) 石垣 智博

思います。さらに、創立90周年行事では記念誌作成を担当し、業者さんや記念誌委員の方々と構成を考えたり、原稿の収集、内容のチェックをしたりしました。思う存分やらせていただいた、楽しい3年間でした。

東高1年の歩み(平成30年9月～)

3泊4日で台湾に行ってみました。2年生がクラスごとに現地の高校生と学校交流を行いました。



平成30年 9月28日(体育大会) 伝統の1年生男子による高校生体操が今年も行われました。160名の糸乱れぬ動きは壮観です。



平成31年 2月13日(マラソン大会) 男子12キロ、女子7キロという昔ながらのコースを1・2年生全員が完走しました。



令和元年 5月31日・6月1日(卒業式) 充実した3年間の高校生活を送った276名が卒業しました。素晴らしい進路実績を残してくれましたが、3月19日に後輩たちにその体験談を報告しました。